

新・佐渡再生八策

佐渡は超高齢者社会—政治の根幹は医療・福祉です。
医療・福祉を堅固にするには、産業力の強化が必要です。

「産業は福祉の糧」



佐藤ひさお

プロフィール

誕生日：昭和22年7月23日
生まれ：旧佐渡郡畑野町大久保56番地 清七郎
現住所：佐渡市長江大手435番地3
家族：妻、子供3人
趣味：ウォーキング・登山・読書・音楽鑑賞・映画鑑賞
座右銘：①「意志あるところに道がある」(西洋のことわざ)
②「日本を今一度せんたく致し申し候」(坂本龍馬)
尊敬する人物：大隈重信、福沢諭吉、坂本龍馬、上杉鷹山
池田勇人、松村謙三、浅沼稻次郎、三宅正一

略歴

昭和41年：佐渡高等学校卒業(後山小、畑野中)
昭和46年：早稲田大学第一政治経済学部卒業 三井物産(株)入社
昭和49年：三井物産ジャカルタ支店
昭和52年：イラン・ジャパン・ペトロケミカル Co 出向
昭和57年：米国三井物産(株)ニューヨーク本店監査課長
平成16年：三井物産パッケージング(株)取締役経理部長
平成20年：三井物産(株)退職 早稲田大学大学院公共経営研究
科入学 北川正恭教授(元三重県知事)に師事。
平成23年：新潟県議会議員初当選
平成27年：同上二期目当選 平成31年：同上三期目当選

こんにちは！ 佐藤ひさおです

我が国は、長年の円高デフレによる「産業の空洞化」や予算の大幅な削減による公共工事の激減等が主因として、地方の第二次産業は衰退しました。

私は佐渡が抱える問題の根源は【産業の衰退】にあると考えます。これが働き手の【島外流出】を招き、全国的にもまれな程の【少子高齢者社会】(高齢者率41.6%(令和2年))をもたらしました。その結果、企業や家計の【担税力が弱まり】、佐渡市の【財政基盤は弱体化】し、その地方債(借金)は954億円(平成28年度決算)にもなりました。この背負いきれない程の借金を孫子の代に残してはなりません。私は、次のとおりの道筋をつけて、これ等の問題を解決致します。

佐渡市の【954億円の借金】を【無借金経営】へ

それには、

佐渡市の【弱い財政】を【強い財政】へ

それには、

【担税力の衰え】を【企業収益や個人所得の増大】へ

それには、

【少子高齢化】を【多子多齢化】へ

それには、

働き手の【島外流出】を【島内流入】へ

そして、

【衰退した産業】を【強い産業】へ転換することが
必要です。

佐藤ひさお事務所

佐和田(東大通)：〒952-1307 佐渡市東大通1212番地4
TEL：0259-67-7575 FAX：0259-67-7582
携帯電話：080-1064-8405
両津(長江)：〒952-0027 佐渡市長江大手435番地3
携帯電話：080-1064-8405

【五つのお約束】

佐藤ひさおは
次の五つの約束を守ります

①佐渡の人口減少をストップし、佐渡を元気にします。

佐渡は、人口が減る一方です。限界集落とは、過疎化等により人口の半分以上が65歳以上になり、冠婚葬祭等の共同生活が困難な集落を指します。

これに歯止めをかけるには、佐渡の産業力を強化する他ありません。永年続いた「円高・デフレ」で「産業が空洞化」したこと、公共工事が激減したこと等で、コメ農家は兼業先を失い、農家数は50年前の3万2千人から現在は6千人(平成27年)です。農家が減少すれば、その影響で商業も元気がなくなります。

これを断切るには、第二次産業(製造業・建設業)を元気にすることです。これを可能にするのが「佐渡空港整備」を始めとする「新・佐渡再生八策」です。

②旧市町村間の格差を解消します。

合併後、旧市町村間格差が深刻な問題です。各々の地域の特徴を活かして、産業を活性化し、地域格差のない、バランスのとれた佐渡づくりを実現します。

③【スピード感】をもって仕事をします。

私は問題を先送りせず、迅速に解決します。遅くとも、1~2週間内に問題解決するか、その目途をつけます。

④【市民の皆様の意見】を県政に反映させます。

定時或いは随時に、市民の皆様と意見交換会を開き、皆様のご意見に耳を傾け、問題を解決します。個人、団体いずれも結構です。佐渡の発展に前向きで建設的な意見をお願いします。

⑤【説明責任】を果たします。

市民の皆様【知る権利】に答えて、私は【説明責任(Accountability)]を果たし、納得の行く県政に取り組めます。【市民は納税者(Taxpayer)、私は公僕(Tax eater)]の自覚に立ち、わかりやすい県政を目指します。

—「東京都佐渡市構想」—

はじめに

佐渡は高速化の波に乗遅れています。日本海の孤島から脱却するには「離島のハンディキャップを克服する」航空路が必要です。幸い、来年、令和5年6月頃、「佐渡島の金山」の世界遺産登録が期待され、また、ほぼ期を同じくして同年12月頃にはトキエアーの新潟-佐渡-羽田航空路実現が見込まれています。佐渡と首都圏との間で、インバウンドのみならず、企業や人の流れが活発化することが期待されます。

佐渡の人口減少を食止めるには、空路で佐渡を首都圏経済圏に組み入れ、首都圏の富を佐渡に取込むことです。それが私の主張する「東京都佐渡市」構想です。

佐渡の人口減少はなぜ起きるのでしょうか

昭和40年の佐渡の農業人口は32千人でしたが、50年後の平成27年には6千人となりました。農業人口の落込みが激しく、大きな問題です。原因は二つあります。米の消費量の半減と米価の低迷です。米の最大消費量は昭和38年で1,400万トンでしたが、近年では700万トンです。又、佐渡産コシヒカリの最高値は26千円でしたが、今では16千円です。これ等を主因として、今日の農業人口は50年前に比べ約8割減りました。

また、佐渡全体の人口は、昭和40年に103千人でしたが、50年後の今日では5万人に半減しています。私はその理由を企業の減少にあると考えます。昭和40年、佐渡の製造業は477社でしたが、50年後の平成27年は229社に半減しました。なぜ、企業が減ったか。昭和60年、アメリカのレーガン政権の時に、ドル高是正の為の「プラザ合意」がなされ、それ以降、我が国は急激な円高となり、輸出産業は生産拠点を海外に移転しました。その結果、国内では「産業の空洞化」が生じました。佐渡も例外ではありませんでした。私は、この企業、特に雇用吸収力のある製造業が過去50年間に半減したので、佐渡の人口も半分になったと考えます。

それではどうすべきでしょうか

佐渡は高速化の波に乗遅れています。佐渡を首都圏経済圏に組み込み、その富を佐渡に取込むことです。それには佐渡-羽田航空路開設が必要です。宮沢内閣は第六次空制で、麻生内閣は第七次空制で佐渡空港滑走路の2千米化を閣議決定しました。「民生安定」と「地域経済の活性化」の為です。そして、泉田知事当時、佐渡-羽田航空路開設と佐渡空港滑走路の2千米化を県会に提案しました。「離島のハンディキャップの克服」の為です。残念ですが、この三つ共実現していません。しかし、最近、私は知事から「トキエアーの就航を進める

ことで滑走路2千米化につなげて参りたい」、「トキエアーの羽田枠の獲得に、県と致しましては最大限協力して参ります」との答弁を頂いています（昨年12月7日の私の一般質問への花角知事答弁）

なぜ、「佐渡島の金山」の世界遺産登録を目指すのでしょうか

1750年、イギリスで産業革命が起こりました。その約100年後の1850年、アメリカ西海岸はゴールドラッシュで沸き返りました。多分に産業革命による機械化の恩恵を受けていたでしょう。しかし、「佐渡島の金山」はその250年前、1601年の徳川幕府の本格開発により、「佐渡島の金山」の「ゴールドラッシュ」が始まりました。しかも、「伝統的手工業」により、質・量共に世界一の金を生産しました。これが「佐渡島の金山」の世界に誇る普遍的価値です。この素晴らしさを世界中の人々に知ってもらい、「世界の宝物」にする価値があるからです。

「佐渡島の金山」の世界遺産登録は佐渡再生の起爆剤となり得るか

日本政策投資銀行新潟支店は、年間520億円の経済効果があると予測しています。いま、「佐渡市生産高」は年間で約1,724億円（平成30年度）ですので、その影響の大きさが推し量れます。又、その効果は、観光業界だけでなく、内外観光客の来島により、米、魚、野菜、果物等の島内消費が増え、佐渡の産業経済全般にわたり、底上げが期待されます。

今も昔も「佐渡島の金山」は佐渡の宝です

佐渡は、徳川幕府の天領として、「ゴールドラッシュ」に沸き返りました。一攫千金を夢見た人々は全国から集まり、相川は5万人の大都市に膨れ上がりました。江戸時代、そこには、「夢」と「仕事」があったからです。いま、佐渡に求められるのは「夢」と「仕事」です。その為にも、来年、令和5年6月頃の「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録を是非とも実現しなければなりません。

令和5年6月頃の登録に至る道筋について

本年、令和4年夏から秋口にかけて、イコモスはユネスコの世界遺産委員会の諮問を受け、佐渡の現地調査に入り、翌、令和5年5月頃、その調査結果を世界遺産委員会に答申する見込みです。そして、同委員会は令和5年6月頃には、「登録」、「情報照会」、「登録延期」、「不登録」のいずれかを決定します。登録を勝ち取るには、地元の熱意が必要です。我々は、イコモスの現地調査に際し、機運を盛り上げ、全島挙げて世界文化遺産登録の熱意を示そうではありませんか。

新・佐渡再生八策

はじめに

坂本龍馬は我が国の新しい国造りの骨格を「**船中八策**」にまとめた。これが後の明治政府に大きな影響を与え、新国家建設の指針となりました。私は、この坂本龍馬の「**船中八策**」に思いを馳せ、佐渡の産業経済の活性化を図るため、平成24年に「**佐渡再生八策**」を公表しましたが、この度、これを見直し、「**新・佐渡再生八策**」を策定しました。ご理解、ご賛同頂ければ幸いです。

記

第一策：交通インフラの整備につき、

- ① トキ・エアの佐渡-羽田航空路開設の促進。
- ② 佐渡空港滑走路の2千メートル化の早期実現。
- ③ 大佐渡山系にトンネルを建設し、外海府から前浜方面への大動脈、縦貫道の建設。
- ④ 大型クルーズ船等の着岸可能な埠頭の整備。

第二策：観光につき、

- ① 「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録の早期実現。
- ② 北陸新幹線の敦賀、大阪への早期延伸、トキエアーの大阪等への就航促進による関西、中部方面からの観光客誘致。
- ③ クルーズ船（豪華客船）の佐渡寄港の増加促進。

第三策：産業につき、「産業は福祉の糧」の観点から

- ① 佐渡-羽田航空路開設による企業誘致の促進。
- ② 特に、IT産業の誘致の促進。
- ③ ものづくり等の地場産業の起業・創業の促進。

第四策：農林業につき、農家の現金収入の拡大の為、

- ① 県の施策に沿った園芸作物の生産・販売の促進。
- ② 農産物ブランド化で首都圏への空輸・販売の促進。

第五策：畜産につき、佐渡産黒毛和牛のブランドを確立し、中国、米國、ベトナム等への輸出の促進。

第六策：水産業につき、

- ① 世界遺産の早期実現で、水産物の島内消費の拡大。
- ② 首都圏等への鮮魚の空輸促進で、漁業収入の拡大。

第七策：再生可能エネルギーにつき、

- ① 国の2050年のカーボンニュートラル構想に照準を合わせ、佐渡に対する県の「自然エネルギーの島」構想の着実な実行。
- ② 現在の佐渡の年間CO₂の排出量は約70万トン。この内、火力発電所から年間39万トン(56%)排出。当面、この化石燃料から太陽光等の自然エネルギーへの転換でCO₂の排出量を半減させ、世界一空気がきれいで、美味しい島を実現。有力な観光資源化を目指す。

第八策：医療、福祉、介護につき、

- ① 佐和田病院の閉院や相川診療所への縮小により、病床は515から388となり、佐渡の医療は大きな転換期を迎えています。佐渡医療圏には県立病院が無く、市民は不安を抱えています。市民ニーズを的確に捉え、県に県立病院並みの対応を求めていきます。
- ② 奨学金等の充実により、地域枠の拡充で医師を確保し、安心して医療サービスが受けられる体制を作ります。
- ③ 看護師不足は深刻で、県立病院採用の看護師の離島枠を設けてもらい、一定期間の派遣を県に求めます。
- ④ 看護師、介護士の待遇改善でその確保を目指します。
- ⑤ 医療・介護・福祉の一体的提供体制の構築に尽くします。

おわりに

構造変化で生じた問題は、その根源に遡って原因を究明し、体系的で「物語性」のある対策を講ずる必要があります。対処療法では抜本的な解決は困難です。

そこで、私は3期にわたる県議の経験を活かし、佐渡の直面する諸問題を抜本的に解決する為に、「佐渡再生八策」の具体策を皆様にご提案致します。皆様のご意見をお聞かせください。

佐藤ひさおは「挑戦」と「創造」を提案します。

①「産業力強化」への挑戦

佐渡は、農業が衰退し、農業人口が著しく減少しています。これを立て直すには米の単作から**園芸農業**も取り入れた複合経営が必要ですよ。

その上、第二次産業（土建業・製造業）への挺入れが求められます。一つには、公共工事予算を増やすこと、二つには、佐渡には、全国的評価を受けている先端技術産業があるので、これ等の産業力を強化することです。それにより、農業が兼業できる環境を造り、島民が豊かになる政策を進めます。

50年たつて	国勢調査	第1次産業 (農林水産業)	第2次産業 (建設製造業)	第3次産業 (サービス業)	合計
	2015年 (平成27年)	5,862	4,885	18,248	28,995
1965年 (昭和40年)	31,835	6,495	16,034	54,364	

②「多子多齢化社会」の創造

佐渡の産業力を強化することで職場を確保し、若者が将来設計できる佐渡島を作ります。家庭を築き、子供を持つ様な子育て環境を作ります。

2 観光：「佐渡島の金山」を世界の宝として活かします。

① 外国人観光客を積極的に誘致します。

(a) 佐渡金銀山の**世界遺産登録**の早期実現を図ります。

② 関西圏からの観光客を増やします。

- (a) 大阪-新潟間の**トキエアー就航**は絶好の機会です。
- (b) 北陸新幹線の**大阪延伸**は関西圏の観光客取込みのまたとない機会です。

③ クルーズ船(豪華客船)の来島を増やします。

- (a) 大型クルーズ船が着岸できる埠頭の建設を促進します。(災害時にも利用可)
- (b) 従来の欧米の富裕層に加えて、新しいアジアの富裕層が増えています。
- (c) 我が国では、団塊の世代が年金生活に入り、利用者が急増しています。

3 企業誘致：雇用の拡大をめざします

① 佐渡空港の周辺や近辺に工場団地を造成します。

② **先端技術産業(輸出企業)等を誘致**します。(実例：山形県の庄内空港) 税制上の優遇措置(例：固定資産税の5年間減免等)を講じ実現します。

- ③ **今や、我が国の貿易高の半分以上はアジアとの取引**です。
→ その為にも、佐渡空港の拡張は必要なのです。

挑戦と創造 — 「佐渡新時代の創生」

医療・福祉政策

8 医療 福祉 子育て支援 医師、看護師不足の解消
特養待機者の解消/首都圏のシニア層の誘致
学童保育の充実/養育医療の充実/産前産後の心身ケア

産業は福祉の糧

産業構造の改善

交通インフラの整備

1-1 空港：「航空路」で佐渡を首都圏経済圏に組み込み、佐渡を豊かにします!!

① トキエアーの安定就航の為の環境づくりを進めます。

令和4年夏頃、新潟を起点に丘珠、仙台、愛知、大阪に就航、令和5年暮頃、新潟-佐渡-首都圏(羽田を軸に)就航見込。

② 佐渡空港滑走路2千メートル化の為の条件整備とPIの即時実施

③ **佐渡-羽田航空路開設**

- (a) 県は、令和5年暮れ頃のトキエアーの就航を進めることで実績を積み上げ、滑走路2千メートル化につなげる意向(令和3年12月7日、私の質問に対する知事答弁)
- (b) 現空港は昭和33年に供用開始していますが、70年間に迫る今日、一部地権者のご理解を頂けてない現状です。この問題は今解決しないと、解決の見通しが立たないまま、先送りとなりかねません。今こそ解決すべき時です。
- (c) 当座、現890米滑走路でもATR42-600(48人乗り)は、一定の条件で飛行は可能です。しかし、海外からのチャーター便が飛来すると、乗客のみではなく貨物輸送も行うにはどうしても2千メートル滑走路が必要なのです。ご理解ください。

④ 佐渡空港が黒字にする為には、

- (a) 空港周辺の工場団地の造成と企業誘致(実例：庄内空港)
- (b) 農水産物の巨大市場の首都圏への空輸(実例：庄内空港)

1-2 港湾：大型船が着岸できる埠頭の建設

- ① 大型クルーズ船(豪華客船)の誘致のため
- ② 自然災害(佐渡北方沖地震津波等)の防災減災対策のため

1-3 大佐渡山系にトンネルを建設：外海府から前浜まで縦貫道の大動脈が必要です

- ① 通勤圏の拡大の為に → 冬でも外海府地区から国中で仕事ができるように
- ② 救える命を救う為に → 緊急車両(救急車や消防車)が早く着くように
- ③ 輸送の効率化の為に → 漁業等の産業用車両の時間短縮できるように
- ④ 新観光ルートのために → 観光客が観光スポットを効率的にまわれるように

有人国境離島法(有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法)によれば、「国、及び地方公共団体は**港湾、漁港、道路及び空港**の整備のために必要な措置を講ずるよう努める」と定めています。

エネルギー政策：化石燃料発電から自然エネルギー発電(太陽光・風力・潮力・波力等)

7 エネルギー政策：佐渡を世界一空気がきれいでおいしい「環境の島」に

佐渡の年間CO₂の排出量は70万トン、この内、火力発電から39万トン(56%) → **自然エネルギー**への転換 → CO₂を56%削減できます。 → 佐渡は世界一空気がきれいでおいしい島へ

- ① 具体策：(a) 県の「自然エネルギーの島構想」の実現 (b) 電気自動車の普及拡大
- ② 効果：(a) **地球温暖化抑制**の為に先導的取組 → **異常気象の緩和**への評価 (b) **新たな観光資源**として観光客が増えることが見込まれます。

「東京都佐渡市」構想のねらい

東京には、我が国人口が一極集中し、世界中の文物が集まる巨大市場です。「佐渡を豊かに」するには、佐渡を**巨大な首都圏経済圏**とジェット機で結ぶ必要があります。

佐渡空港は、それ単独で論ずるのではなく、「**産業経済**」の中核に据え、その発展の為に活用する視点が必要です。庄内空港が良い例です。そこでは、空港周辺に工場団地を造成し、**エレクトロニクス産業の誘致**を図ると共に、**農産物の空輸**で航空路を黒字化しています。

佐渡空港は、「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録をはじめとする観光、企業誘致、農水産物や工業製品等の空輸等、**あらゆる産業の要**となります。一日も早い滑走路の2千メートル化と佐渡-羽田航空路の開設が求められます。東京の「豊かさ」を空の回廊で佐渡に取込むことが狙いです。

4 農林業：農家の現金収入の拡大をめざします

① 園芸作物の普及(米単作からの脱却で複合経営をすすめます)

- (a) 果物、野菜、切り花等の生産を盛んにし、農家の所得を増やし、若者が張り合いのある農業をめざします。
- (b) 大きな市場の首都圏経済圏に佐渡産米や園芸作物を販売します。
→ その為にも、佐渡空港の拡張は必要です。

② 佐渡産米・園芸作物等のブランド化を図ります。

→ その為には、「資源循環型有機肥料工場」の建設が必要ですよ。

③ 森林環境税により林業の活性化を図り、雇用を促進します

5 畜産振興：佐渡産黒毛和牛肉の輸出や観光客への提供

① 繁殖牛に加え、肉用牛の振興を図ります。

→ と畜場、食肉加工センター等の建設や販売会社の設立で、雇用を促進します。

② 佐渡牛ブランド(仮称：佐渡高原牛)を確立します。

③ 佐渡産黒毛和牛の輸出をめざします。(米國、中国、ベトナム等)

→ その為にも、佐渡空港の拡張は必要なのです。

6 水産振興：水産資源の減少を捕い、佐渡の水産業を復活します。

- ① **栽培漁業(海洋養殖)**を推進します。
- ② **クロマグロ、寒ブリ、鮮魚・活魚**を空輸します。
- ③ **水産業の六次産業化**を推進します。